

長崎県南高来郡吾妻町方言のAspect

愛宕 八郎 康隆

I. はじめに

- (1) 調査対象地：吾妻町は、島原半島北西部に位置し、果樹栽培（蜜柑・梨・キューイの他にいちご）を主に、米作、畜産（乳牛・肉牛・豚）や野菜作り（馬鈴薯・玉葱・キャベツ・茄子・甘藷）を生業としている。漁業も、わずかに副業的に行われている。交通は、島原鉄道便が16往復、バス便が20往復（いずれも、諫早、島原方面）あり、交通の便に恵まれている。人口は8233人、世帯数は2073世帯である。
- (2) 調査年月日時：1993年10月31日午後1時～午後6時、1994年1月13日午後3時～午後6時20分
- (3) 話者：福元克哉 大正10年11月15日生（72歳）農業 当地生まれの当地育ち。
田原陽子 昭和46年5月25日生（21歳） 当地生まれの当地育ち。
- (4) 調査者・調査場所：愛宕八郎康隆、福元克哉は福元宅にて、田原陽子は調査者の研究室にて。
- (5) 調査方法・調査時の状況：現地の調査場所には、福元と親しい幸田凡人（66歳、吾妻町出身、青年期まで当地に居住、後、諫早市に移住するも、今日まで、足しげく吾妻町に出入りしている）に同席してもらい、場の雰囲気や柔らげたり、回答事象が出やすいように協力してもらった。調査全般、くつろいだ雰囲気の中に順調に進行した。また、Aspectについて、その老若差を見るために、青年女子についても調査を行った。
- (6) 表記方法：1. 記述中、Yと記しているのは、話者が田原陽子（若年者）であることを表す。
 2. Yの記載のないものは、福元克哉（老年者）の回答表現であることを示す。
 3. Yで示す表現は、老年層とは差異を見せる表現を表す。したがって、Yとしての表現の記載のない場合は、老年者と同形であることを意味する。
 4. ①、②は、事象の回答順位を表す。
 5. 参考事象の提示によって得られた事象については、頭に△を付す。
 6. 「Aspect事象の記述に際しては、必須のもの以外、文末詞は捨象する」との原則に従ったが、これを少しゆるやかに考え、調査項目の16、17、32、33、34、35、36、45、64、66、79、95、96、98などでの文表現には、文末詞をも含めて記述した。
 7. Aspectを見ていくうえで、動作修飾語としての副詞とのかかわりが注目される。調査項目の3、11、14、15、16、43、57、95などではそれに配慮して副詞をも

記し、調査項目4、8、9では、「ホラ」、「ホーラ」などの感動詞（感声部）をも不可欠の事象として取りあげた。

8. 回答事象中、「～シヨル」、「～イキヨル」などの末音節の「ル」は促音化する場合が多いが、ていねいな発音では促音化しないこともある。本稿では、統一をはかることなく、実現されるままに記載した。

II. 調査結果

1. (昔は)よく行ったものだね $\bar{\text{ユ}}\text{ー}$ イキヨ $\bar{\text{ツ}}$ タ
2. (あのころは)おもしろかったなあ オモシロ $\bar{\text{カ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ タ
3. (もうちょっとで)落ちるところだった マ $\bar{\text{ー}}$ チ $\bar{\text{ツ}}$ ト デ オ $\bar{\text{チ}}$ $\bar{\text{ユ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ ト $\bar{\text{コ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ $\bar{\text{ジ}}$ $\bar{\text{ヤ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ タ （「オチヤユツ」は、「オッチヤユツ」、「ヒチヤユツ」、「ヒッチヤユツ」とも表現される。なお、青女は、「オッチャックル」を用いる。）
4. (今にも)落ちそうだよ ホ $\bar{\text{ー}}$ ラ ヒ $\bar{\text{ッ}}$ ト デ ヨ $\bar{\text{ッ}}$ （「ヒット」は接頭辞で、不注意にもこの意がある。）／Y①オッチャクツ／Y②オッチャユツ
5. (財布を)落として オ $\bar{\text{ッ}}$ $\bar{\text{チ}}$ $\bar{\text{ヤ}}$ カ シ テ
6. 困っている コ $\bar{\text{マ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ チ ョ $\bar{\text{ッ}}$ ／Y コ $\bar{\text{マ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ ト ル
7. (一本の蠟燭が今にも)消えそうだよ ① キ $\bar{\text{エ}}$ ヨ $\bar{\text{ッ}}$ ／② キ $\bar{\text{エ}}$ ワ カ ツ チ ョ $\bar{\text{ル}}$ ／Y① キ $\bar{\text{エ}}$ ヨ イ （ヨイはヨルの音変化）。② キ $\bar{\text{エ}}$ カ カ ツ ヨ $\bar{\text{ッ}}$
8. (今)消えようとする ホ $\bar{\text{ー}}$ ラ キ $\bar{\text{エ}}$ ヨ $\bar{\text{ッ}}$
9. (完全に)消えた ホ $\bar{\text{ー}}$ ラ キ $\bar{\text{エ}}$ $\bar{\text{ッ}}$ シ モ $\bar{\text{ー}}$ タ ／Y ホ $\bar{\text{ー}}$ ラ キ $\bar{\text{エ}}$ テ シ モ $\bar{\text{ー}}$ タ
10. (すでに)消えていたよ ① キ $\bar{\text{エ}}$ $\bar{\text{ッ}}$ シ モ チ ョ $\bar{\text{ツ}}$ タ ／② キ $\bar{\text{エ}}$ チ ョ $\bar{\text{ツ}}$ タ ／Y キ $\bar{\text{エ}}$ ト $\bar{\text{ツ}}$ タ
11. (何本もの蠟燭が順に)消え始めた ワ $\bar{\text{ー}}$ ツ ガ ツ キ $\bar{\text{エ}}$ カ カ ツ タ ／Y キ $\bar{\text{エ}}$ ハ ジ メ タ $\bar{\text{ー}}$
12. (何本もの蠟燭が次々)消えていくなあ ① キ $\bar{\text{エ}}$ チ イ $\bar{\text{キ}}$ ヨ $\bar{\text{ル}}$ ／② キ $\bar{\text{エ}}$ $\bar{\text{ッ}}$ シ マ イ ヨ $\bar{\text{ル}}$ ／Y① キ $\bar{\text{エ}}$ テ イ $\bar{\text{キ}}$ ヨ $\bar{\text{ル}}$ ／② キ $\bar{\text{エ}}$ テ シ $\bar{\text{マ}}$ イ ヨ $\bar{\text{ル}}$
13. (何本もの蠟燭が順に)消えているよ キ $\bar{\text{エ}}$ チ イ $\bar{\text{キ}}$ ヨ $\bar{\text{ッ}}$ ／Y キ $\bar{\text{エ}}$ テ イ $\bar{\text{キ}}$ ヨ $\bar{\text{ッ}}$
14. (何本もの蠟燭が全部)消えているよ ベ $\bar{\text{ラ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ チ ョ （あるいは、ベラル） キ $\bar{\text{エ}}$ $\bar{\text{ッ}}$ シ モ チ ョ $\bar{\text{ル}}$ ／Y ベ $\bar{\text{ラ}}$ $\bar{\text{ル}}$ キ $\bar{\text{エ}}$ テ シ モ $\bar{\text{ー}}$ ト ル
15. (何本もの蠟燭の火を次々)消している ① ワ $\bar{\text{ー}}$ ツ ガ ツ キ $\bar{\text{ヤ}}$ シ ヨ $\bar{\text{ル}}$ ／② ジュン ジュン ニ キ $\bar{\text{ヤ}}$ シ ヨ $\bar{\text{ラ}}$ ス （①に比べてていねいな言い方）
16. (もう全部)消しているか ベ $\bar{\text{ラ}}$ $\bar{\text{ツ}}$ チ ョ （ベラル） キ $\bar{\text{エ}}$ $\bar{\text{ッ}}$ シ モ チ ョ $\bar{\text{ル}}$ カ ／Y ベ $\bar{\text{ラ}}$ $\bar{\text{ル}}$ キ $\bar{\text{エ}}$ ト $\bar{\text{ツ}}$ カ
17. (今にも桜が)散りそうだよ チ $\bar{\text{ロ}}$ $\bar{\text{ソ}}$ ン シ チ ョ $\bar{\text{ル}}$ ／Y チ $\bar{\text{ル}}$ バイ （若年層では、この表現が一般化している）

18. (ちらほらと) 散り始めた ①チリカカッタ／②チッデタ／Yチリカカッタ
19. (今現に) 散っている チリヨル
20. (桜の木がすっかり) 散っている Δチツジモッチョッ／Yチツテシモチョッ
21. (地面一面に) 散っている チッチョッ
22. 今にも降りそうだ フルゴタッ
23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ フルゴテシチョッタ
24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ ①フツチョッタ／②フリョッタ (①と②に用法差は認められないが、①の方をよく使う。)
25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ ①アケカカッチョッタ／②アケッテ ショッタ (①の方をよく使う。)
26. (来年の今ごろは家を) 建てている タテヨッ
27. (来年の今ごろは家をすでに) 建てている タテチョッ／Yタテトッ
28. (あの家はよく) 磨いてある ミダチョッ／Yミガイテアッ
29. (隣の犬が) 鳴いている ナギヨッ
30. (隣の子が) 泣いている ①ナギヨッ／②ネーチョッ (人間についてしか言わないという。)／Yナギヨッ
31. (こどもたちが) 喧嘩している ①ジヨル／②シチヨル (目の前の景として直接体験している場合に用いる。)
32. (家に) いるかなあ ①オロ カネ。／②オロ カイネ。／③オラスヤロ カネ。(①②に対して、少していねいな表現。)
33. (〇〇さん) いるか ①オソ ナ。／②オッ 下ナ。／③オッ 下方ナ。(①②に比べて、ややいてねいな表現。)④オラス カナ。(③よりも少していねいな表現。)
／Y①オル／②オッ トー。
34. (ああ) いるよ ①オッ ダイ。／②オッ 下ダイ。(①②のダイ、トダイの文末詞は、それぞれダーイ、トダーイとも実現される。これらは強調形)／Yオル ヨー。
35. (そういう人も) いるよ ①オソ ネー。／②オッ タイネー。／③オラス タイネー。(①②③と順次いてねいさが増す。)
36. (あなたは今何を) していたか ①シチョッタ ツナ。／②ジヨッタ ツナ。(ふつう、①をよく使う。)
／Yジヨ ヨッタ ト。
37. (私は今金魚を) 見ていたよ ミチョッタ／Y①ミヨッタ／Y②ミーヨッタ
38. (金魚が今にも) 死にそうだ ①シソヨル／②シソカカッチョル (独自の表現)
／Y①シソヨル／Y②シソカカッチョル (若年層では、チョルはほとんど使用せず、ヨルを用いる。①と②、Y①とY②との間に、とくに用法差はない。)
39. (やっぱり金魚は) 死んでいたよ シソジョッタ／Yシソドッタ

40. 読み始めていた ヨミカカッチョッタ／Ｙヨミカケヨッタ
41. 読み始めたところへ(～た) ①ヨミカケチョッタトコレ／②ヨミカゲチョッタ
ギラ(通常②の言いかたをする。)／Ｙヨミカゲトッタトコレ
42. 着くと同時に～した チーダギラ／Ｙツイダギツチャ
43. 着くと同時に～してくれ ツッギラ スグ／Ｙツイダギラ スグ
44. 鳴りつづけている ナリヨッ(鳴っているも鳴りつづけているも、ともにナリヨッで表現する。)
45. (先生は今何を)しているか ①シチヨラス ト。／②シーヨラス ト。(①に比べて、若干いい表現。)／Ｙシーヨラス ト。
46. 好きだ ①スイチヨル／②シーチヨル(②を多用する。)／スイドル
47. 見られているのも ミチヨラレチョットモ シランナ(シランナは、シランニヤともなる。後者をよく使う。)／Ｙミラレトットモ シランデ
48. (今、運動会が)ある ①(ノ)アッチヨル／②(ノ)アリヨル／Ｙ(ノ)アリヨル
49. (降らなくて)よかったよ フラジ ヨカッタ／Ｙフランデ ヨカッタ
50. (先生がこっちへ)来つつある キーヨラス
51. (犬がこっちへ)来つつある キーヨル
52. 似ている ニチヨル／Ｙニドル
53. (一週間も前から遊びに)来ている アスブダ キチヨッ／Ｙアツピニ キトル
54. (昔から)苦勞していない クローバ シチヨラン／Ｙクローバ シトラン
55. (今はあまり)苦勞しないでいる クローワ シチヨラン／Ｙクローワ シトラン
56. ～は売っているが、～は売っていない ①アスケナ タバコワ ウッチヨロンジ
ヨソ キモナ ウッチヨラン。／②アスケナ タバコワ ウッチャットナンジヨソ
キモナ ウッチャ ナカ。(②より①の方が、少していねいな表現。)／Ｙアスコワ
タバコワ ウツテアッパッテン キモノワ ウツテ ナカ。
57. (昔からタバコを)売っている ①ショデカル タバコバ ウッチヨル／②～ウ
ツチャル／③～ウッチヨラス(①に対して、②、③の表現は少していねい。)／Ｙム
カシカラ タバコバ ウツトル
58. (今、大売り出しで衣料品を)売っている ①ウリヨル／②ウリヨラス(①に比べて少していねいな表現。)
59. (もう三回)来ている キチヨッ／Ｙキドル、キトッ
60. (いつも)来ている キチヨッ／Ｙキドル、キトッ
61. (昔はいつも)来ていた キチヨッタ／Ｙキヨッタ
62. (前に一度)行っている ①キタ コツノ アル／②イタ コツノ アル／Ｙイ

ウッタ コトノ アル

63. 先に行っておいてほしい イッチョイテ / Y ①イッチョツテ / ②イキョツテ (若年者は、①はあまり使わなくて②を用いる。)
64. 待っていないさい マッチョケ / Y ①マツトカン ネー。 / ②マツチョカン ネー。
(若年者は、②はほとんど使わなくて、①を多用する。)
65. (外に) 待たせてあるよ マタセチョル / Y マタセトル
66. 食べておいておくれ ワーチョイテ 丕。(さらに短直には、クチョケ 丕。と言う。) / Y ①タバ下方ン ネ丕。 / ②タバチョカン ネ丕。(若年者は、通常、①の表現を用いる。)
67. (昔と) 違っている チゴチョッ (文末詞ネを従える場合には、チゴチョンとなる。) / Y チゴートル
68. (昔は今のと) 違っていた チゴチョツタ / Y チゴートル
69. (毎日梅干しを) 食べている クチョル / Y タベョル (若年者は、クチョルをほとんど使わない。)
70. (毎朝) している ショール (ショーヨツとも言う。)
71. 気をつけていて (~した) キツケチョッチ
72. 行ったまま~ ①イタママ / ②イタギッチョ (①の場合は、行ったままの時間が短い時に、②の場合は、行ったままの時間が長期にわたる時に言う。) / Y イタママ
73. ~しながら ①シーシ (通常この言い方をする。) / ②シーナガル (①に比べて、少していねいな表現。) / Y シーナガラ
74. ~の途中で~する ①イツガキ / ②イツガケ (①の方をよく使う。) / Y ①イキガキ / ②イキガケ (若年者の場合も、①の方をよく用いる。)
75. ~の途中で~した ①イキョツ トキ / ②イキョツタラ (参考事象のイキョツテ形は行われていない。)
76. ~の途中で止めて~した Δヨミカケチ / Y ヨミカケテ
77. ~したばかりだ ヨーダバツカリ / Y ヨンダバツガイ
78. 無くなっている ナシナツチョル / Y ①ナシナツトル / ②ナクナツトル
79. 無くなるぞ ①ナシナツシマウ ド。 / ②ナシナツ ド。(通常は、この言い方をする。) / Y ナラチイ ヨ。
80. 掛けておいた帽子 カケチョツタ / Y カケトツタ
81. 並んだ本 ナロジョル / Y ナランドル (若年者は、ナロジョルは使わないようである。)
82. 並べた本 ナラベチャル / Y ナラベテアル
83. ~しておこうか ヨージョコ カイ。 / Y ①ヨンドコー カ。 / ②ヨンドコ カ。

84. やってあるか ①シ^テシ^モタ ナ。(このような完了態形式で表現するのが常。) / ②シ^チヨ^ル ナ。(この表現はあまり用いられない。)
85. 壊している ツ^クイ^ケチ^ョッ (当地では、壊すをツクユルと言う。) / Yコ^ワシ^ヨル (若年者は、ツ^クイ^ケチ^ョッを使わない。)
86. 壊れている ①ツ^クエ^チヨ^ッ / ②ツ^クエ^チヨ^ッ (通常、②をよく用いる。) / Yコ^ワレ^トル (若年者は～チ^ョル形を使わない。)
87. 壊されている ①ツ^クイ^カサ^レチ^ョッ / ②ツ^クイ^カサ^レチ^ョッ (通常、②をよく用いる。なお、頭部のツ^ク、ツは接頭辞。) / Yコ^ワサ^レト^ル
88. のけてある ①ノ^テチ^ョッ / ②ヨ^ソサ^メ ヤ^ッチ^ョッ / ③ナ^オシ^チヨ^ッ (通常、①を用いる。②は、行きとどいた表現。③は、元の所に戻すという意で、この場合のように、ともかく取りのけるというような時には、あまり使わない。) / Yノ^テト^ル
89. 書き終わった ①テ^ーチ^シモ^タ / ②テ^ーッ^シモ^タ (通常、②の方をよく使う) / Yカ^イテ^シモ^タ
90. 書いてしまいなさい ①テ^ーッ^シヌ^ーナ^ンセ^ー / ②テ^ーチ^シマ^エナ^ンセ^ー (通常、①をよく使う) / Yカ^イテ^シマ^イナ^{サイ} (共通語形を用いる)
91. 書いてしまう ①テ^ーチ^シマ^ウ / ②テ^ーッ^シマ^ウ (通常、②の言いかたをする) / Yカ^イテ^シマ^ウ
92. 書いてみた テ^ーチ^ミタ / Yカ^イテ^ミタ
93. (孫は今)入院している ニ^ュー^イン^シチ^ョル (こういう場合、シ^ョル形は使わない。) / Yニ^ュー^イン^シト^ル
94. (弟も今)入院しているそうだ ①シ^チヨ^ルゴ^タッ / ②シ^チヨ^ッラ^シカ (通常、①の言い方をする。意味は、両者変わらない。) Yシ^トッ^ゴタ^ー
95. (きっと)よくなるよ ①マ^チゲ^ナシ^ー ユ^ー ナ^ッ タイ。 / ②ジ^キ ユ^ー ナ^ッ タイ。 / ③ジ^キ ユ^ー ナ^ラジ^ャー。(きっとをジキ(すぐ)に置き換え、反語表現仕立てにしている。その分強調的で、相手への慰めというよりは、励ましの表現と言えよう。) / Yキ^ット^ヨー ナ^ル ヨ^ー。
96. (だんだん)よくなるよ ユ^ー ナ^ル ヨ。 / Yヨ^ー ナ^ル ヨ。
97. 歳とるとね ①ト^シト^ッチ ク^レバ / ②ト^シト^チ ク^レバ / ③ト^シ ト^レバ (通常、③の言い方をする。①②でもわかるように、歳をとっていくの言い方はしない。) / Y①ト^シト^ッチ ク^レバ / ②ト^シト^ッテ ク^レバ (通常、②の方をよく使う。)
98. なおらなくなるよ ①ナ^オラ^ンゴ^ツ ナ^クク^ッ ダ^ーイ。 / ②ユ^ー ナ^ッチャ^コン ヨ。(①をよく用いる。) / Yナ^オラ^ンゴ^ト ナ^ッテ^クッ。
99. (1) (犬が)怪我したので ケ^ガシ^タセン (ケ^ガシ^ョッタ^{セン}は言わない。) / Yケ^ガシ^タケン (ケ^ガシ^ョッタ^{ケン}は言わない。)
- (2) (こどもが)怪我したので ケ^ガシ^タセン (ケ^ガシ^ョッタ^{セン}は言わない。)

／＼ケガシ^タケン（ケガシヨッタケンとは言わない。）

（３）（お父さんが）怪我したので ①ケガサシタセン／②ケガセラシタセン（①より、②の方がよりていねいな言い方。ケガシヨッタセンの言い方はしない。）＼＼ケガサシ^タケン／②ケガセラシ^タケン（①より、②の方が、いくぶんていねいな言い方。なお、ケガシヨッタケンの言い方はしない。）

（４）（雨が）降ってきたので フチキ^タセン（フチキヨッタセンの言い方はしない。）／＼フツ^テキ^タケン（フツテキヨッタケンの言い方はしない。）

100. （１）雨が降りつつある

C「すでに盛んに降り続けている、降っている最中である」状態を表す。

（２）貯金が増えつつある

A「貯金が少しずつ増えようとしている」状態を表す。

（３）貯金を増やしつつある

C「すでに現にかなり増やしている最中」であることを表す。

III. 総括（まとめ）

老若二者を比較してみたい。調査項目 100のうち、老若で回答事象形を異にするもの（音声面、文法面で何らかの差異を示すもの）は、68であるが、その68のうち、アスペクトのことと直接関係のないものは15（調査項目9、12、13、76／18、30、45、97／34、36／89、91、92／74、96）である。

残りの53のなかでの主要な差異は、総括して言えば、次のようになる。

老年者にあつては、継続（例えば、6、54、55、60、61など）、進行（例えば、31、36、37、40、45、47、48、78など）、状態（例えば、52、67、68など）、結果（例えば、14、16、27、39、53、81、86、87など）、回想（例えば、23、24など）、伝達（例えば、93、94など）など、すべて、「～ Chol」形（「～ Chotta」、「～ Joru」、「～ Jotta」をも含めて）でまかなっている事態が注目される。

これに対して、若年層にあつては、老年者が「～ Chol」形で表現するところを、ほとんど「～ Toru」形（「～ Totta」、「～ Doru」、「～ Dotta」を含めて）で表現しているのが注目される。ただ、老年者が、調査項目48、63、69で「～ Chol」、36、37、40、61で「～ Chotta」、45で「～ Chorasu」と、「～ Chol」形で表現するのに対して、若年者は、それぞれ「～ Yoru」、「～ Yotta」、「～ Yorasu」など「～ Yoru」形を用いるのが注目される。

総じて老年者に盛んで、深くアスペクトにかかわる「Choru」ことばは、若年者にはなじまず、かわって「Toru」、「Yoru」が活躍を見せているのが、当方言社会の特徴的な傾向と言えよう。

（あたごはちろう やすたか・活水女子大学文学部）